

新聞OB 「九条の会」

2026年1月29日 第158号 【部内資料】

〒113-0033 東京都文京区本郷2丁目17番17号 井門本郷ビル6F
新聞労連気付 TEL 03(5842)2201 FAX 03(5842)2250
(郵便振替口座) 新聞OB「九条の会」00130-0-334661

日本国憲法

第二章 戦争の放棄

第九条① 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

② 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

2025「望年のタベ」

新聞OB「九条の会」では12月10日午後2時から小石川後樂園「涵徳亭」で会員会友16人が参加して2025年「望年のタベ」を開催。講師に元新聞労連委員長でJCJ代表委員の藤森研さんを招き「高市早苗政権と憲法の行方」について語ってもらいました。



藤森さんはまず自己紹介。私は皆さんと同じ新聞労働者です。朝日新聞社で社会部記者として活動をしてきました。声も悪く話し下手です。今日は「高市政権と憲法」についてお話しします。高市政権は船出2か月となりますが、亡くなられた安倍さん

高市政権と憲法9条の行方

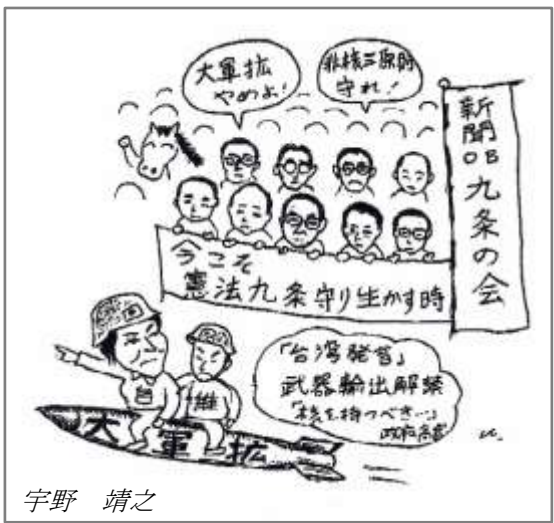
とは考え方が同じで「大惨事安倍内閣」と呼ばれています。また先輩首相の麻生太郎さんはかつて台湾で「台湾有事は日本有事」とぶっつけています。高市さんは麻生、安倍さんに洗脳されたものと思われ続きます。



事務局長
山口文昭

新聞OB「九条の会」のみなさん明けましておめでとうございます。お元気で新年を迎えたことと思います。最近、よる年波には逆らえず、身体もあちこちガタがきて薬を手放せない状態ですが頑張り抜きましよう。今年の干支は丙午（ひのえうま）60年に1度なんです。新しい挑戦と変化「情熱的と行動」パワフルの意味合いがあるようです。憲法改正、改悪の動きが活発化しています。憲法を守り生かす闘いに「老いてなお」ますますの心意気で頑張りましよう。1年の短命で終わった石破政権を引き継ぎ、初の女性首相として華々しくデビューした高市早苗首相は連立が変わったことへの信任を得たいとし、国会冒頭での衆院解散の虚に打って出ました。議員としてわずか1年4か月、大義無き「自己都合解散」に翻弄され再び選挙戦に挑むことに。厳冬のなか700億円もの血税を使い高市人気にすぎたる自維政権に厳しい審判を下しましょう。

昨年、の国会論戦で立憲民主岡田議員の質問に対し「台湾有事は存立危機事態」との発言は官僚の答弁書にも無い首相自身の発言で対中国との関係を最悪のものとしています。日台との歴史は古く日清戦争の植民地時代をへて、第二次大戦でのポツダム宣言受諾、1972年日中共同声明で随一の合法政府として承認しており台湾の領有権、請求権を放棄しています。日本政府は台湾の帰属先について「発言する立場がない」と公式見解で態度を明確にしています。対中国との関係についてもアメリカからも見放され最悪の事態と言えます。自維連立の約束として裏金、企業団体献金の禁止には手を付けず目眩ましの議員定数削減の暴挙に出ました。また社会保障制度の見直し、OTC類似薬など医療費の大幅な削減では国民、高齢者の生活と命に関わる大きな問題と言わざるを得ません。高市政権による憲法改正、改悪への動きは一層活発化しています。本来、憲法を守る義務があるのは国民の権利と自由を守るためであり「国家権力を縛る」ための最高法規のはずです。守るべき側が現実には逆転し憲法を守ろうとせず、蹂躪し国民を奈落の底に突き落とそうとしています。今回の衆院選で政治の大転換をはたしました。う。いつか来た道にならぬよう、平和で安心して暮らせる社会の実現を目指して頑張る決意を込め、念頭の挨拶といたします。



暮らしに安心 外交で平和を 政治の大転換をはたしましょう

(藤森講演1面からの続き)

高市発言は間違い

そんな矢先の11月7日の衆院予算委員会での高市首相は台湾有事が集団的自衛権行使が可能になる「存立危機事態」となり得る」と明言しました。この発言が中国政府を刺激「台湾は中国領土の一部である」として反論。さらには中国国民には日本への渡航制限を呼びかけるなど国際問題に発展しています。

私が思うに「台湾有事発言」には日本の集団的自衛権は発生しません。高市発言は間違いなので、すから撤回すればよいのですが、いまだに撤回していません。

一方、高市新政権について、世論調査によると8割の国民が高市首相を応援しています。ある人



は「日本の夜明け」とも持ち上げています。国会では9条改憲派が多数を占めています。3分の2には不足しています。国家予算を見れば軍事費倍増、安保3文書改定、非核3原則もどうなるか心配です。

国会解散はいつか。高市政権支持率が高い一方で自民・維新の連立政権は不安定であり、有効な反撃体制には準備が急務となっています。スパイ防止法必要論の誤りを今こそ明らかにしましょう。

中国と日本の軍事費を対比しますと、中国が36・5兆円(プラス杉)に対して日本は8・7兆円です。日本の4倍以上です。平和国家路線こそが賢い策です。かつての満州事変が違法行為だったと明らかにしているように軍事情報も公開が必須です。

戦争違法化の道のり

各政党の憲法改正への賛否も明らかにしました。いろいろな意見があります。憲法改正といえども何を変えるのか。憲法学者・長谷部恭男教授が言うように「どの部分を明記すべきか」明らかにする必要があります。

20世紀の戦争違法化の道のりをひも解いてみましょう。1904年、日露戦争では女性歌人の与謝野晶子は「君死に給うことなかれ」とうたいました。「戦争は悪なのか」世界の先人はいろいろ語っています。日本は戦後80年、平和国家を護っています。「平和と民主主義」——高市首相の持論は押しつけ憲法と言っています。世界では軍隊のない国が20か国あります。その中で中南米のコスタリカには軍隊はありません。非武装を護っています。

ブレーキ役だった公明が抜け維新が新たに加わった暴走内閣。憲法9条の「専守防衛」が崩れてきています。「安保3文書」を取り上げても「持ち込ませず」は否定できません。駐留米軍が存在する以上平和国家は変質させられているのです。武器輸出はどうか。世界の9割が安保理事国であり、アフリカへ武器を輸出し



活発な質問、意見がだされ、意

答える藤森さん。

ています。

自民と歩をとともに進める維新は半身の構えで議員削減の方向です。定数削減は今国会は継続審議となるようですが、議員定数が削減されれば少数政党は切り捨てとなり大政党が有利となります。ここでも高市首相は平和主義を崩そうとしているのです。

国民の世論がどのように出るか。国会解散はあるのか。次期国政選挙はいつになるのか。国民世論が気になるところです。

まとめにはいりません。今回の討議資料として5月3日前後の全国各新聞36社の憲法に関する社説・主張・論説等の見出しと主に9条に関する憲

法改正問題について主張をまとめました。

部数の大小はありますが「護憲」「改憲」あるいは「護憲的論議」「改憲的論議」い

ろんな主張が読み取れます。是非参考にしてください。

藤森さんの講演の後には参加した皆さんから活発な意見が寄せられました。



講演会の後は記念撮影&懇親会へ

老来老(朗)話

戸塚 章介

「ナポリを見て死ね」という言葉がある。終活の目玉商品としてどうしてもナポリへ行かねばならないという強い信念を持つに至った。今から11年前のことである。私は早速、旅行社たびせん・つなぐに相談して「お仲間で行く陽光輝くイタリア南部11日間」なるツアーを企画。お仲間を誘ったら13人が応じてくれた。新聞OB会関係では岩田健一(毎日)、平沼晃(東京)、浅見寛(会友)の3人、他に東電関係、出

絶景のイタリア・アマルフィ海岸

版関係、地元関係、それと添乗員の荒井江梨香さん。うちの女房は13時間も飛行機に乗るのは耐えられないと言うので、今回はお留守番。15年5月15日11時15分、アリア航空で成田を発った。

ローマには現地時間19時に予定通り着いて、ここでナポリ行きに乗り継いだ。出発は21時のはずだが一向に搭乗案内がない。搭乗ゲートも二転三転して混雑する空港内をうろうろ。日付が変わった0時30分にやっと機内へ。1時30分にナポリに着く。荷物を受け取って外へ出たら午前2時。イタリアって国は大変なところだ。

翌日はカプリ島見学だった。天候が悪い。風も強いので青の洞窟はダメ。ケーブルカーで島の一番高いところへ上る。眼下の海は波が砕けて、カモメが飛んでいる。このカプリ島もナポリの景色も、確かに目を見晴らせるものがあるが、それを見たら「死んでもいい」というほどのものでもない。昼食のワインとパンは

うまかったが、散策疲れでもう帰りがたくなった。3日目のボンベイ遺跡はこれまたとことん歩き疲れた。足下が極端に悪い。右足に違和感を覚えて靴のつま先を見たら見事に靴底が剥がれてぱくぱく。とりあえず輪ゴムで押さえる(ホテルに帰ってからセロテープで応急修理をした)。世界遺産の古代遺跡はもうたくさんだ。夕食はサンタルチア港へ。ヨットがいっぱい。お城がある。いかにも観光客向けのレストラ。ここもシーフードだ。たびせんはおれたちの年齢を考えて魚介類主体の食事を用意してくれている。夕暮れの港と下町の灯の風景がワインの風味をいや増している感じ。気分よく酔えたディナーだった。

せっかくナポリへ来たのに気分としては消化不良だった。スキッと晴れやか、思わぬ飛びきりの体験だったのが絶景のアマルフィ海岸ドライブ。切り立った崖の緑のくねくねと曲がる狭い道をバスが突っ走る。紺青の空と海、白い波濤。アマルフィの街で食べた昼食も美味。ビバ・イタリアーノだ。「やっとなポリを見た」とそんな満足感に浸りながらその夜の飛行機で次の訪問地シチリア島へと向かったのだ。

ひと言

「望年の夕べ」のハガキで寄せられた「ひと言」をご紹介します。ご協力ありがとうございます。

誠にすみません!「望年の夕べ」参加できないのでお許しを!!

先日、芳尾孝治様から激励のハガキを頂き、11月8日(土)に行われた「あま9条の会」の世話人会で、読み上げたら参加者7名から拍手が沸き上がりました。(嬉しかったです。)

さて、物価高で大変な世の中ですが、今のところ「憲法9条」のお蔭で何とか笑えて!!食べて!!健康!!(少し右膝が痛いですが...)でいるので十分幸せ!!です。

いつも新聞OB「九条の会」をお届け頂き感謝しています。

今後とも、嫌がらずによりしく願いますね!!皆様にくれぐれもよろしくお伝えください。(乱筆乱文をお許し下さい)

西山 公雄(元毎日・中部)

先約が予定に入ってしまったので残念乍ら欠席します。86歳になりいろいろ

くたびれてきましたが、担当のコナーはもう少しがんばります。

宇野靖之(元読売)

山口さん、いつもありがとうございます。当日、あいにく予定が入っており残念です。

藤森研さんのタイムリリーな演題で、討論が盛り上がると思います。次回のニュースを楽しみにしております。

藤原 忠雄(元日刊工)

総会の返信の中で、赤川さんの回復されていることを知り大変嬉しかったです。私もお会いできることを願っています。どうぞお元気で!!

岩月 一子(賛同者)

久しぶりに参加できるとか思っていたのですが、カミさんの介護の関係で出席できなくなりしました。いつかきた道の空気が強くなってきました。目の黒いうちは戦争させない、そんな思いを強くしています。

水久保 文明(元毎日)

高市政権は「有事」に関心があるようだが「無事」を願いたい。「望年の夕べ」のご盛会を!!

松尾 暁(元福島民友)

いつもニュースありがとうございます。平和を

願う希望の星です。頑張ります。

吉田 成峯(元東京)

来年90歳になります。何とか元気にしています。

小泉 陽一郎(元共同)

残念ながら他の忘年会とバッティングしてしまいました。ご盛会を祈念します。

石原 尚樹(元毎日)

おかげ様で元気に暮らしておりますが、毎週水曜日は午前、午後とも用事があります。

残念ですが、欠席させていただきます。

来年もよろしく願います。

松井 久江(賛同者)

「最早 戦前かも」と思ってしまうほどのひどい政治世界です。日本のみならず。

まずいのは、若者程、高市を支持していることかな。この人たちは、九条教育されてないのかも。

仲山 太郎(賛同者)

2週間前にケガをして入院してしまいました。今はリハビリに頑張っています。皆様もお元気でお願いします。

下田 武男(元読売)

(以下5面に続きます)

映画『レーン・宮沢事件—もうひとつの12月8日』 「スパイ防止法」策動粉碎のために鑑賞を

福島 清



DVDは3000円で頒布中（上映会OK）ビデオプレスまで。

昨年12月、映画『レーン・宮沢事件—もうひとつの12月8日』の上映会が都内で2回開催された。

13日、文京区民センターで150人が参加して開催されたのが「第85回憲法を考える映画の会」。初めて知った会だが2013年から継続して、2019年にもこの映画を上映。「映画・日本国憲法」「9条を抱きしめて」「東京裁判」などの映画上映が続いている。国分寺に事務所をおく組

織で、配布された16頁もの資料は充実している。「憲法を考える会」で検索すると活動内容が分かる。

16日、参議院議員会館講堂で120人が参加して「第3回スパイ防止法を考える市民と超党派議員の勉強会」が開催された。映画上映の前夜で、社民、立憲民主、れいわ、共産の国会議員が「スパイ防止法」の危険性について訴えた。

映画上映の後、「解説」を要請されたので、「宮澤・レーン・スパイ冤罪事件」を引き起こした戦前の「スパイ防止法」である「軍機保護法」について10分ほど発言した。国民弾圧法規はどん



なに付帯決議を付けても成立すれば、弾圧に猛威を振るうと訴えた。

＊

映画「レーン・宮沢事件」は、1993年、ビデオプレス社が制作。冒頭にいち早く「宮澤・レーン・スパイ冤罪事件」を取り上げ「ある北大生の受難—国家秘密法の爪痕—

スパイ冤罪事件を繰り返させてはならない！

国会内で『レーン・宮沢事件』上映会

12月16日、参議院議員会館講堂で正午から「第3回スパイ防止法を考える市民と超党派議員の勉強会」を開催。ラサール石井、有田芳生、平岡秀夫、塩川鉄也さんら国會議員と市民120人が参加した。冒頭、実行委員の菱山南帆子さ

を出版した上田誠吉弁護士が登場。朝日新聞に「スパイ防止法ってなんだ」連載記事を書いた藪下彰治朗記者、宮澤弘幸の妹・秋間美江子さんら関係者が次々と登場する。

宮澤が北大在学中、師弟関係を築いたフオスコ・マライニをイタリヤに訪ねてインタビューした映像、宮澤の初恋の人・高橋あや子さんの証

言などは貴重だ。

この映画のDVDは、ビデオプレス社（03-3530-8588）で販売中。3000円。

ネットメディア「レイバーネット日本」では、映画を含む「勉強会」の2時間の全映像の記録を紹介している。

www.labornet.jp.org/news/2025/1216hokoku

にない事態だ」と危機感を訴えた。

続いて1993年制作のドキュメンタリー映画『レーン・宮沢事件—もう一つの12月8日』を上映（写真上、中）。12年前の秘密保護法反対闘争時にも見たが、何回見ても国家権力の弾圧の残酷さと、それと闘った人々の記録は説得力がある。

制作者のビデオプレス・松原明さんは再版したDVDを販売して訴えた。

この映画について「解説」を要請されたので、「スパイ防止法を許すな！ 宮澤・レーン・スパイ冤罪事件を繰り返させてはならない」と題した資料を配布して10分ほど訴えた（久しぶりに大勢の前での発言だったの

でどこまで伝えたかは？。事件の解説をした筆者（写真下）

最後に海渡雄一弁護士が、詳細な資料を基に、国民民主党と参政党が「スパイ防止法」を国会に提案した今、「スパイ防止法」に反対する運動を緊急に構築しよう！と訴えた。

法の支配崩壊の瀬戸際で

新聞は何を伝えたか

田原 恒男

不安と期待が交錯する中で2026年を迎えた。憲政史上初の女性首相が誕生し政策抜きに期待感が広がった。しかし、平和憲法の下で歴代政権が守ってきた原則(専守防衛)、国是(非核三原則)を簡単

に覆していく危険な動きを強める高市政権。それにも拘らず高い支持率を維持する状況に新聞は国民に何を呼びかけたか、元旦の全国紙をもとに考えてみたい。

この大切さを主張する。毎日「多党化した議会は、目先の利益ばかりを追求しポピュリズムに傾斜

現状認識の目線

昨年、大国の「力による支配」の動きが強まる中で右翼的な高市政権が誕生した。世界は、今「力づくで覇権を争う」とを許すのか、又は「国連憲章、国際法にもとづく秩序」を取り戻すのか歴史の分岐点に直面している。

読売は「新しい秩序の形成に向けて国際世論を主導すること」を主張、「ま

主権国家の根幹を問う

台湾有事を「存立危機事態」として自衛隊の参戦を明言。中国の軍拡を理由に更なる軍拡を宣言する高市首相。一国の総理大臣としての発言の重さを理解できない根底に日米同盟がある。

日経新聞は「日米の緊密な同盟関係を維持するのは必須の前提だ」とし、その一方「過剰な『米国頼み』からの脱却も見据えた複眼的な思考が欠かせない」と主張する。この相反認識を各紙とも共有していると云って

する「目前の問題にとらわれて個人の利害に固執するばかりでは、意見を異にする側との対立を深める」とたえ立場が違っても、同時代に生きる人々の問題意識や悩みを共有し、それを将来世代にも『拡張』する」と指摘し、こうした試みの必要を強調している。

各紙の主張は、分断と排除の排外主義、ポピュリズムが強まる中で納得することが出来る。だが意図的かどうかは別にして避けている肝要な問題がある。

中・六本木にある米軍のヘリ基地(赤坂プレスセンター)からトランプ大統領とヘリに同乗、原子力空母に搭乗し、兵士を前に大統領領におだてられ飛び上がった喜び、独立国の首相として無自覚な姿を世界に晒した。

米国のベネズエラを武力攻撃、大統領夫妻を拉致する蛮行にも批判できない高市政権。米国頼みからの脱却期待など幻想でしかない。

戦死者たちからのメッセージ

■わらび作品展をみて

山口 文昭

戦後80年・被爆80年。わらび空襲80年、平和都市宣言40周年記念事業の取り組みとして市民が実行委員会となり鉄の造形作家・故武田美通(ただよし)氏の作品群が到着。12月10日からの展示に向け組み立て作業に入りました。

同時に、わらび空襲パネル展、シベリア抑留された故橋本太久磨さんの油絵作品「シベリア抑留」や手縫いの「憲法タペストリーキルト」の展示も行われました。

今、軍備拡大に邁進する政府に対し、二度と戦争を繰り返さない戦争の悲惨な光景と召集札状一枚で多くの若者が戦地の生き地獄へ。生きて戻る



帰還兵が問う



被爆した犬と少年



飢餓地獄



靴を食う兵士

ひと言

(3面からの続きです)

「望年の夕べ」の成功を願っています。

北川 孝雄(元朝日)

残念ですが参加できません。よろしく願います。

藤井 政人(元読売)

戦争の動きが出てくる昨今。昭和10年生まれの

私は同16年に始まった戦争にひどい目に会いました。「平和」のためにがんばりたいのですが、脊柱管狭窄症(セキチュウカンキョウウサクシヨウ)で歩けず、90歳のボケジジイは巣ごもりするだけ。残念です。

石坂 正雄(元日経)

ご盛会を祈っています。乱筆乱文ごめんください。

高橋 幸雄(元フジTV)

楽しみに読ませてもらっています。

(以下、6面に続きます)

です。

戸塚 章介(元毎日)

高市の発言は危険です。

藤田 進一(元日刊)

楽しみを読ませて

もらっています。

高橋 幸雄(元フジTV)

(以下、6面に続きます)

新聞OB「九条の会」活動報告 (2025 年度)

新聞OB「九条の会」は2005年3月3日幹事会をスタートし今年、結成20周年の節目を迎えました。記念の取り組み等について今後の幹事会で議論していきます。

会報は幹事会と会員・賛同者を結ぶ交流の場として皆さんからの積極的なご意見をお待ちしています。会報発行と緒行動は以下の通りです。

◆会報発行

1月28日 第151号 4ページ
3月3日 第152号 6ページ
5月26日 第153号 6ページ
6月24日 第154号 2ページ
8月26日 第155号 4ページ
10月16日 第156号 4ページ
11月6日 第157号 2ページ

◆諸活動

2月8日 九条の会東京連絡会(文京区民センター)
5月3日 憲法大集会(有明防災公園)15人。
11月3日 国会前集会 8人。
12月10日「望年のタベ」16人。

◆会員・カンパの件

会員・賛同者は現在153名。財政は今期2年ぶりにカンパ支援要請をしました。64人から総額35万円を超えるカンパが寄せられています。ありがとうございました。会計報告は上記右のようになっています。(事務局長・山口文昭)

2025年度会計報告

(2025年1月～12月31日)

収入			
項目	予算	決算	摘要
繰越金	157,411		24年度繰越金
カンパ		344,976	
カンパ		15,000	
合計		517,387	

支出			
項目	予算	決算	摘要
印刷代		14,295	新聞労連へ
郵送料		118,810	会報の発送など
事務費		89,435	インク代など
賛同金		6,000	9条の会東京連絡会
合計		228,540	
繰越金		288,847	26年度へ繰越

ひと言

(5面からの続き)

まだ腰の痛みが続いています。

窪添 秀郎 (元共同)

返事が遅くなり申し訳ありません。現在、歩行不
ありませ。現況、歩行不
如意の状態により残念乍
ら欠席させて頂きます。
盛会を祈ります。
上江洲由朋 (元日経)

申し訳ありませんが、
先約がありますので欠席
します。高市早苗首相の台
湾有事に関する国会答弁を
受けて中国が対抗措置とし
て、「中国が日本水産物の
輸入停止」をした。
それだけでなく高市政権
はあらゆる場所で国民のや
ってほしいこととは反対の
ことばかり始めた政権、自
維政権は一日も早く退陣さ
せなければならぬ、と強
く思う。

大澤 保男 (元共同)

三等国となったアメリカ
大統領。トランプ米大統領
がベネズエラのニコラス・
マドゥロ大統領を力で拘
束。犯罪者として米国の裁
判にかけている。国際法か
らいっても一国の大統領を

拉致するためには戦闘機1
50機を投入、空港まで破
壊するということが許さ
れることなのか。
明らかに他国を侵略し
たことになるのではない
か。民主主義国家として世
界をリードしてきたアメ
リカだったが、最近のトラ
ンプの手法を見るにつけ、
戦争する国へと誘導して
いるように感じてならな
い。

トランプは「大統領とし
て平和を希求している」と
は言っているものの、行っ
ていることは野蛮で手法
にはギャップを感じてな
らない。民主主義国家アメ
リカは平和国家をかなぐ
り捨て、野蛮国家になり下
がったとしか言いようが
ないように感じる。

芳尾 孝治 (元内外)

新会員紹介

藤森 研さん (元朝日)
藤田 進一さん (元日刊
工)

カンパのお礼

藤森 研さん (元朝日)
10000円
ありがとうございます。

訃報

大越 孝一さん (元読
売)。昨年12月18日に亡く
なられました。87歳。
謹んでお悔やみ申し上
げます。

漢和

閑話

宇野 靖之

「新しい戦前」

3年前、当時の国
際情勢(ウクライナ
侵攻、米中対立)や、
国内の軍拡・統制強
化の動きがある中
で、タモリさんが
『徹子の部屋』で
「来年はどんな年になる
か」と聞かれ、「新しい戦
前になるんじゃないです
かね」と言いました。「新
しい戦前」という言葉は、
今の時代がかつての戦前
と似た空気を帯びてい
ることを危惧する意味
で、一世を風靡(ふう
び)？しましたね。当コ
ナーでも取り上げた記憶
があります◇昨年は、戦
後80年の年、高市自民、
維新連立政権が発足。国
民の願いや裏金問題、企
業・団体献金に対しては
「あさつて」の方を向き、
「大軍拡」、「台湾発言」、

「スパイ防止法」等々、
「新しい戦前」へまっし
ぐら。年寄りをいつまで
も楽にさせてくれません
ね。みなさんと力を合わ
せて「新しい戦前」をスト
ップさせなくってはね◇
「あさつて」(明後日)Ⅱ
「明日の次の日(今日か
ら2日後)」と「見当違い
・とんでもない」「判断や方
向性が誤っている」とい
う意味もあり、「明後日
(あさつて)の方向」とい
う使い方をします◇「あ
さつて」関連の小話を紹
介します。「紺屋(こうや)
の『あさつて』」コンヤの
転、藍染めを業とするも
の。後には一般に染物屋
をいう。紺屋の仕事が
天候に支配されるので、
染物の仕上げが遅れがち
で客の催促に対して、い
つも「あさつて」と言いぬ
けて、あてにならないこ
と、転じて、約束の期限が
あてにならないことを
「紺屋の『あさつて』」な
どと使います。

新年のスター
トは衆院解散・
総選挙です。な
ぜ、高市首相は
統一協会の癒着などス
キャンダルまみれで、と
ても国会審議に耐えられ
ないことから支持率の高
い時に解散にうつて出た

のが真相の様です▼「老
いてなお」、我々は「憲法
九条」に基づく外交の力
で平和な日本をつくらう
とおおいに声をあげてい
きましよう▼今号は「事
務局長の訴え」「望年のタ
ベ」「スパイ防止法粉砕」
「元旦の社論」「ひと言」
と豊富な内容です。読ん
だ感想をお寄せくださ
い。待つてまうす。(斎藤)